

# IT転職市場レポート～2020年冬～

今年全体の転職市場の流れと今後の予測をまとめてみました

ITセクション コンサルタント 坂井 倫

まずは今年1年を振り返ってみて・・・

---

# 2020年の総括

# 2020年の総括①

## ● 2020年1月～3月

### 【主なトピック】

- ・メガベンチャーの採用クローズ
- ・新型コロナウイルス拡大により採用市場全体の落ち込み傾向加速
- ・出口の見えない情勢から転職活動を控える候補者の方も増加傾向に
- ・組織体制の変更などの企業も相次ぎ、**先行き不透明感から流動性の激減**

## ● 2020年4月～6月

### 【主なトピック】

- ・緊急事態宣言に伴う市場全体の**クローズ**、採用クローズのピークに
- ・IT業界は業績の格差が拡大、企業の倒産、エンジニア組織解散なども発生
- ・候補者側の流動性はほぼストップ。リスクを取る行動は減少
- ・**ポテンシャル採用はほぼクローズ、ミドル・シニア層へニーズが集中**
- ・企業・候補者双方の選択肢が最も少ない状態に

⇒いわゆる氷河期並みの水準に急激に落ち込む。リーマンショック以来の水準という予測も出始め、**採用市場全体のクローズと不安感から流動性はほぼ無くなる**

## 2020年の総括②

### ●2020年7月～9月

#### 【主なトピック】

- ・緊急事態宣言が終了。ウィズコロナへの対応方針が確定し始める
- ・メガベンチャー企業の採用の再開、企業規模問わず企業の採用意欲が高まり、市場の流動性が加速
- ・スタートアップ企業の資金調達も再開。採用市場が軒並み回復傾向に
- ・コロナ禍のネガティブ側面から候補者の流動性が高まる。一方でまだ様子見する候補者も多く完全回復一步手前の状況が続く。
- ・技術イベントも軒並みオンラインに。採用イベントもオンラインの状況が続きエンジニアの情報収集がやや鈍化傾向に
- ・IT業界以外でもメーカー系などでも採用意欲が顕在化。転職市場全体の流動性に大きな流れが出てくる
- ・政権交代に伴うDX戦略、デジタル戦略への期待感からIT市場に注目が集中

⇒IT市場の完全回復へ世の中全体の後押し、期待感から流動性が大きくなる

## 2020年の総括②

### ● 2020年10月～12月

#### 【主なトピック】

- ・採用市場は大幅に回復。求人数の爆発的な増加
- ・メガベンチャーの人材採用が本格化。求人オープンが軒並み加速
- ・候補者側の流動性は大幅に回復。選択肢が増え、リスク回避のための転職活動を志す候補者層の拡大
- ・ポテンシャル採用の門戸は回復傾向。未だミドル/シニア層ニーズは高い
- ・レジャー・トラベルも採用スタート。業界全体で回復間近の状況
- ・IT市場への期待感、他業界でのIT人材の登用・採用活発化など以前の水準+αの市場でのオープン化が進む
- ・転職市場全体の流れが後ろ倒しの状況に。年末～年明けに掛けて候補者が急増。
- ・手放しでの求人フルオープンではなく企業側の厳選も一定数見られる

⇒クローズの反動から一転採用バブル状態に。2018年水準まで回復見込み

# 2020年の総括まとめ

## 2020年日経平均株価の推移

青線が実際の株価

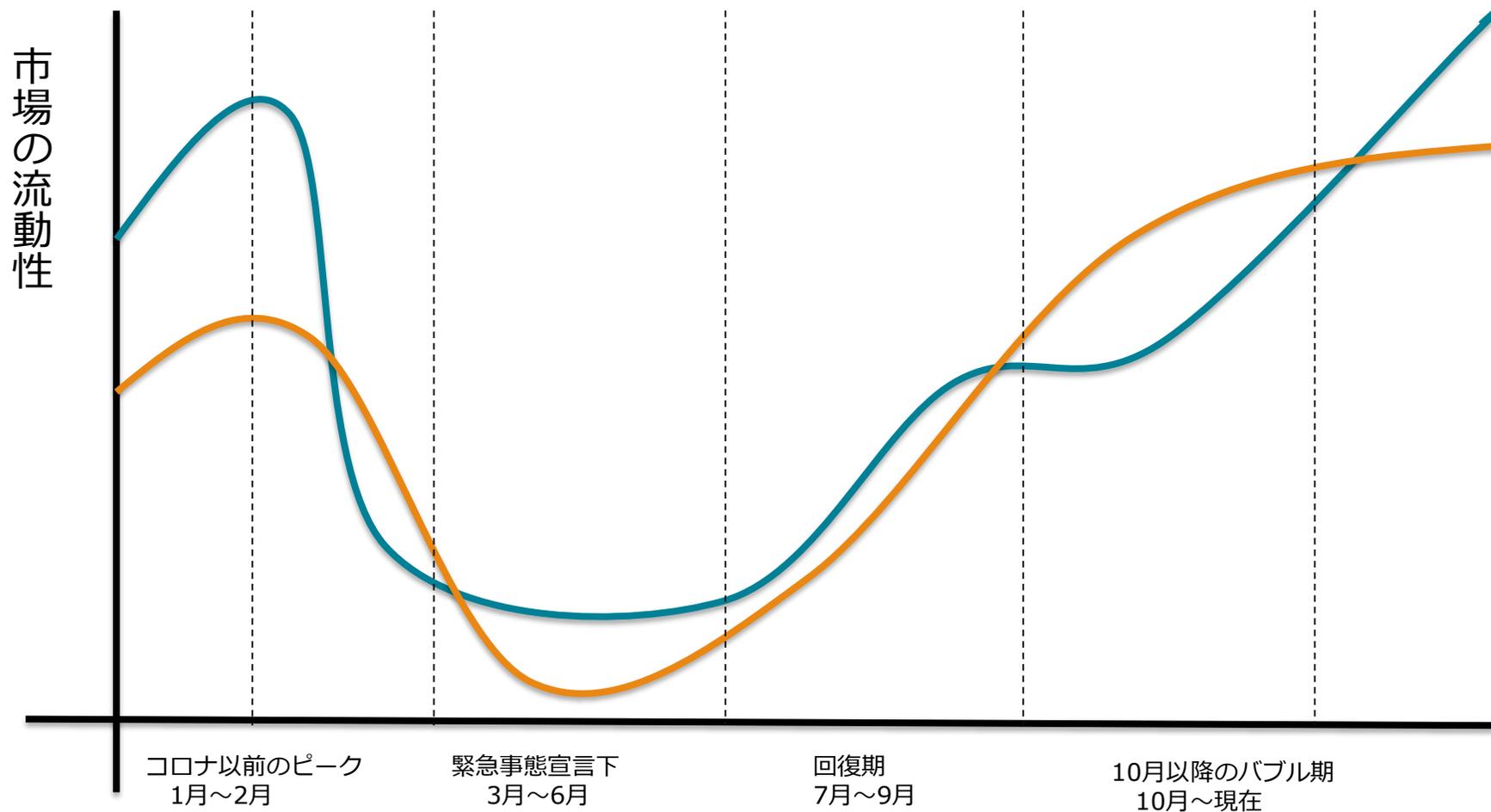


(出所 : Yahoo Japan Financeチャート)

# 2020年の総括まとめ

★大きな流れは下記の図の通り

候補者側の動き  
採用企業の動き



# 2020年の総括まとめ

---

## 【市場の流動性と日経平均株価】

- ・日経平均株価と市場の流動性は**ほぼ一致**している
- ・日経平均の緊急事態宣言後の歩留まり感から直近の流動性は一致
- ・景気の変動予測でも2020年冬～2021年春に掛けて好転予測。しばらく市場の流動性は高いまま推移し、採用市場も大きく加速する
- ・短期的にここまで流動的な指標は珍しく、好調な業界と一気に落ち込む業界で大きな**格差**が発生している

⇒歩留まりの理由に関しては後述します！

# IT転職市場における直近傾向～企業目線～

## 【企業側の目線から】

- ・ 働き方はリモート+出社のハイブリッドが今後の主流になる方向でほぼ確定
  - ・ 働き方に合わせた候補者採用目線の変化  
Ex: カルチャーフィット、人物面重視の傾向が顕著に
  - ・ 選考フローの回数は各社増加傾向  
従来: カジュアル面談⇒1次⇒最終  
7月以降: カジュアル面談⇒1次⇒**2次 (人物面談)** ⇒最終
  - ・ 職種の間口は広めに、採用は厳選するスタイルに変化。
  - ・ 当然ながら技術レベル、技術親和性の目線もやや厳しめの傾向に
- ⇒採用はオープンになったが、マネジメントコストを考慮し厳選する状態に

# IT転職市場における直近傾向～候補者側の目線～

## 【候補者側からの目線】

- ・ 働き方重視は大幅に減少、どの企業も同じ水準になった為より業務内容重視の傾向が顕著に
  - ・ 事業の将来性・事業の確実性に目線が向かう候補者の増加
  - ・ イベントの中止などから情報収集の機会が減少。エージェントを活用する動きも増加
  - ・ 働き方の選択が可能など、選択ができる、裁量が広いなどに注目度が増加
  - ・ フルリモート可能企業も一定数増加。地方・海外在住者へのチャンスも増加
- ⇒2021年以降居住地を問わない働き方の増加により、候補者間での競合が増加する可能性が高い

2021年はどうなっていくのか？

---

# 2021年の予測

# 2021年に向けて①

## 【IT業界全体の視点から】

- ・ 国家戦略としてのDX戦略を現政権が打ち出している  
⇒業界全体として資金投入や法整備など追い風が予想される。業界を超えたソリューションの強みがある企業が大幅に成長する予想
- ・ 社会全体の消費行動・働き方の変化から  
⇒ITサービス全体に対しての世間の見方が大きく変化。生活の一部、業務の一部にITからほぼ大部分をITが占める構図はより拡大傾向に
- ・ 非IT領域のIT人材開発の促進  
⇒大手メーカー各社DX戦略を本格的にスタート。自動車メーカーのSaasに代表されるサービスが今後加速傾向に。メーカーに限らない各業界にも人材ニーズが増加傾向にあり、求人数が激増している

## 2021年に向けて②

---

### 【IT転職市場の視点から】

- ・ 2021年はIT転職市場はピーク時に近い水準まで回復見込み
- ・ 業績好調な業界に限らず、苦戦していた業界でも新たなニーズから回復へ
- ・ エンジニアとして求められるペルソナが各社多様性が増加
- ・ 双方の組織へのフィット感が引き続き最上位の視点に
- ・ IT業界外へのチャレンジ、逆のパターンの傾向も増加傾向  
⇒人材の流動性が加速し、市場全体での活性化が進む
- ・ 現政権のデジタル戦略、国家としてのDX戦略から一種のバブルに

# 2021年に向けての総括～マクロ的な視点から～

## 【まとめ】

★IT市場は**完全復活一歩手前の水準**に戻った。将来の見通しが明るく、業界外の動きを総合しても明るい話題が先行している

★チャンスや働き方が多様であるからこそ**個人が尊重されるタイミング**。徹底した自身の立ち位置、スキル、考え方をまとめた人が優位に立つことができる

★業界に閉じない広い視点での情報が必要。IT業界は今や**国策の一丁目一番地**に一つの視点ではなく**多角的な視点、広い視野での情報収集**に本当の価値が出る

⇒業界としては変動の2020年を過ぎ2021年は爆発的な伸長の予感。

⇒IT業界が他業界を**リードする**可能性も大きい

# 2021年に向けての総括～ミクロ的な視点から～

## 【まとめ】

★企業、候補者双方お互いのニーズの多様化から職種の細分化が増加傾向  
⇒VPoP（プロダクト責任者）、スクラムマスター、アジャイルコーチ  
マネジメントライン中心により**専門領域の採用特化**が加速する

★個人のキャリアパスに沿った選択が加速  
⇒短期的なキャリアパスの選択に対して厳しい見方が増える。より**中長期**での  
個人の考えにフォーカスしたニーズが顕在化する

★求められる候補者像は大きく変化をしていく  
⇒特定だけの領域に閉じず、**いわゆるT字型のキャリアパス**に注目が集まる

★若年層の成長  
⇒いわゆる**Z世代のエンジニア**が大活躍中。ITリテラシーに対しての素地が高く、  
ポテンシャルのレベルを超越したエンジニアが急増している

